

畜産ニュース

◎近畿中国草地改良事業ブロック会議 岡山市で開催

さる4月26日から28日まで、岡山市の県教育会館で近畿、中国各県の草地関係担当者、農林漁業金融公庫中国支店関係者31名を集めて、農林省主催の草地改良事業ブロック会議が開催された。

これには農林省から畜産局佐々木自給飼料課長はじめ係官が出席し第1日は、

①昭和36年度草地改良関係事業の実施方針、②草地改良事業遂行上の留意事項、③大規模草地改良調査計画などについての説明、第2日は各府県の草地改良事業実施計画についての検討、牧野改良の問題点についての協議などが行なわれ、次いで3日目には水島酪農協が造っている児島市福江の緑ヶ丘牧野を視察、研究を行なった。

◎豚の移動禁止解除

昨年12月8日に発生した豚コレラは、関係機関の緊急防疫措置や民間の協力によって3月8日以降発生がなくこれ以上のまん延が防止できると考えられる状態となったので、県畜産課では去る2月7日付で解除された県北部地域に続き5月2日、県南部地域の移動禁止を解いた。これで県下全部の移動禁止が解除されたわけであるが、豚コレラの予防注射の有効期間は6ヵ月なので、夏期をひかえて必ず全頭が注射を受けて引続き警戒するよう望まれている。

5月2日付移動禁止解除地域

岡山市、倉敷市、玉野市、児島市、玉島市、浅口郡、笠岡市

◎昭和36年度定期種畜検査

家畜改良増殖法にもとづいて毎年行なわれる種雄畜の検査が、今年も5月5日から5月27日まで県下

を3地区に分けて行なわれる。内訳は第1班が5月5日から13日まで、阿哲、新見、上房、川上、総社、倉敷地区、第2班は5月6日から18日まで真庭、津山、久米、苫田、勝田、英田地区、第3班は5月19日から27日まで浅口、笠岡、岡山、御津、児島、邑久、赤磐地区について実施され、それぞれ乳牛、和牛、馬および人工授精に併用する豚めん、山羊の種雄畜を対称に衛生、個体の検査が行なわれる。

◎大佐町へジャージー導入

大佐町ではかねてから町北部山間寒冷地帯の営農振興をはかるため、乳牛の導入を計画していたが、さる3月に酪農経営改善地区の指定を受け、4月20日、真庭郡および津山市のジャージー飼育地域から38頭のジャージー仔雌牛を導入した。

同地区は今後新しいジャージー地区として、牧野改良事業とともに急速な頭数の増加が図られる。